

常務理事 分

昭和40年5月15日

N O R C ニ ュ ー ス

社団法人日本外洋帆走協会
関 東 支 部

麻里主事就任

予てより運輸省に於ては、N O R C の事務局体制の強化を要望していましたが、今回運輸省より団体補助費をN O R C に出して戴けることになりましたので、麻里真三氏を当協会主事として、協会本部事務所に常勤することになりましたので宜敷お願いします。

同氏は海運局及び海上保安庁経理補給部補佐官として、経理、調度の仕事を担当して今日に至った方です。

城ヶ島灯台博物館をフィニツシュ点に使用します

今まで京急レストハウスをフィニツシュ点に使用してきましたが、京急も観光シーズンともなりますと、昼間は使用不可能な状態なので、城ヶ島灯台博物館の使用をお願いした処、平和の海協会高橋理事長の承認を得ましたので、城ヶ島灯台博物館の使用に決定しました。

翔鶴号遭難一週年追悼会が行われました

去る3月27日学習院大学に於て追悼会が厳粛に行はれ、安倍院長、麻生学長を初め、山梨名誉院長よりヨットマンに対する激励と心構えについて講話があり、出席者に多大の感銘を与えました。

当協会は生花を供え、則武常務理事、渡辺理事、大儀見常任委員、今井金次氏等が出席され慎んで哀悼の意を表しました。

第一回クルーザー教室は盛会のうちに終了しました

受講者27名、実習使用艇7隻で下記の教育計画に基づき全教程を終了致しました。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 誠意、努力 | 11. 整 頓 |
| 2. 積 極 性 | 12. 天 気 図 |
| 3. 礼 儀 | 13. 料 理 |
| 4. 親 切 | 14. 機 製（帆走の為） |
| 5. 明 朗 | 15. 帆 走 |
| 6. 慎 重 | 16. 機 走（入出港を含む） |
| 7. 敏 速 | 17. 機 関（調整、修理を含む） |
| 8. ロープワーク | 18. チャートワーク |
| 9. 錨 作 業 | 19. 荒天作業（航行停泊共） |
| 10. チェック（安全の為） | 20. レースの為のチューニング |

本講習会に御協力下さいました皆様と特に LOTUS, SHARK VII, SHARK X, ELDORADO, FLAMINGO, LUNAROSSA, OLYMPASS, の船主、艇長、福留氏のご尽力に厚くお礼申し上げます。

NORC第二回講習会を開催します

N O R C 会員を対称に年 2 回講習会を次の要領にて実施致します。会員の皆様は必ず参加して下さい。

同封葉書にて申込下さい。

- | | | |
|------------|--|------------|
| 1. 対 象 | 主として N, O, R, C 会員。会員他にて可 | |
| 1. 会 期 | 昭和 4 0 年 6 月 1 2 (土) ~ 1 3 (日) 日 | |
| 1. 会 場 | 国際貿易観光会館（シルクセンター 3 0 4 ~ 3 0 5 号室）
横浜市中区山下町 1 電話（64）0841~3 | |
| 1. 会 費 | N, O, R, C 会 員 | ¥ 5 0 0 |
| | 一 般 | ¥ 2, 0 0 0 |
| | 学 生 | ¥ 1, 0 0 0 |
| 1. 申込期日、宛先 | 昭和 4 0 年 5 月 3 1 日
社団法人日本外洋帆走協会（N, O, R, C）
東京都港区芝琴平町 3 5（船舶振興ビル）
電話（501）2847 | |

1. 講師及び講議内容

第1日目(6月12日(土)) 14.00~17.00

外洋に於ける航法 航海訓練所教授

航海科長 北川次郎

第2日目(6月13日(日)) 09.00~17.00

(1)衝突予防法の改正点、港則法、特定水域について(1000~1200)

海上保安庁警備救難部航行安全課

海上保安官 小林 和太郎

(2) ヨツトの為の海洋気象について(1300~1500)

日本水産捕鯨船団気象長

馬場邦彦

(3)大型船々長の立場から港湾水道航法、海難防止について

(1 5 0 0 ~ 1 7 0 0)

日本海難防止協会

周知部長 加藤 敬 二

新登録艇紹介

SAIL No	YACHT	RIG	TCF	CL	FLEET	OWNER
364	EARLY BIRD	S		B	HAYAMA	金 川 一 之
設計者 渡辺修治 LOA21'-3" LWL18'-0" ENGINE Out Board						
建造所 オリエンタルボート B 6'-4" D 4'-3" DISPT.1.25T						
365	PIONEER II	S	0600	A	ABURA	パイオニアグループ 田 辺 重 光
設計者 渡辺修治 LOA 24'50" LWL 20' ENGINE YANMA 3BHP						
建造所 加藤ボート B 7'50" D 4'7.5" DISPT.						
366	MOSSA - III	S	0600	A	KOAJIRO	モサグループ 守 屋 克 巳
365と同じ 建造所 坪井ヨット工作所						
367	TILDE	S		A	KOAJIRO	S.G.VISHTAK
設計者 岡本造船所 LOA 9M150 LWL 6M800 ENGINE 8BHP-YANMA						
建造所 " B 2M750 D 1M520 DISPT. 4T						

368	あ か ぎ	S		B		小 林 英 男
	設計者 横山晃	LOA 6M40	LWL 5M			
	建造所 辻堂加工	B 2M09	D 1M35			

369	潮 (うしお)	S		B	HAYAMA	豊 泉 茂 基
	設計者 戸田邦司	LOA 7M480	LWL 5M900	ENGINE 3BHP	YANMA	
	建造所 岡本造船所	B 2M340	D 1M400	DISPT.		

旧艇登録更新 (登録艇で新しく特別会員登録)

156	CONTESSA	S	0581	B	HAYAMA	山 名 雅 之
162	PHOENIX	S	0581	B	KOAJIRO	東海大学細川保弘
317	MAUPITI	Y	0601	A	HAYAMA	岩 田 禎 夫
158	ARGONAUT-II	S	0580	B	YOKOHAMA	慶応ヨット部 金子 芳 雄

艇 名 変 更

SAIL /16	新 艇 名	旧 艇 名	特 別 会 員
146	ROCINANTE-II	LOCINANTE II	大 口 一 英
162	PHOENIX	NEPTUNE VIII	東海大、細川保弘

新計測艇 (再計測艇)

SAIL /16	YACHT	CL	TCF	旧TCF	特 別 会 員
318	SIGMA	A	0596	—	伊 熊 仁 一
323	KAY SEVEN	A	0684	0679	栗 林 定 友
324	AKIZUKI	B	0583	—	福 田 寿 雄
330	FLAMINGO II	A	0596	—	古 屋 龍 太 郎
334	JUNE BRIDE	B	0582	0584	鈴 木 礼 三
183	CYGNUS	A	0602	0612	田 山 英 世
351	BERMUDA	A	0603	—	末 延 道 彦
353	SEA-CROWN	A	0606	—	芹 田 等
354	BABY MARIN	B	0580	—	清 野 博 義
358	SHIOKAZE III	A	0679	—	竹 下 政 彦

359	SCHEDAR	A	0642	—	F.LCAPERS
361	AOLELE II	A	0603	—	沼口 日出士
363	PINK PEAL	B	0596	—	伊藤 善昭
342	YUKIMASHO	A	0617	0613	W.R. CHRISTIANSEN
362	FLEUR BLUE-II	A	0617	—	井上 正春

事務局よりお願い

1. 会費未納の方は至急お払込下さい。

特別会員 6,500

普通会员 3,500

候補生 1,500

払込先

- ①日本勧業銀行京橋支店
(社)日本外洋帆走協会 口座
- ②岡本造船所気付
- ③飯島商店気付

2. 外洋レース規則、計測、レーティング規則、会員名簿の残部がありますから、ご入用の方は事務局迄お申込下さい、無料送附します。
3. 各レースの申込期日、艇長会議の日時は外洋レース規則の末尾に掲載してあります。各レース毎に通知を出しませんから、必ずご参照下さい。
4. 登録、計測、再計測、安全検査は事務局にお申込下さい。
直接各委員に申込まれても、実施致しませんから、ご注意下さい。
5. 初島レース、下田黒潮南進レース、大島レースの表彰式は各レース終了后開催します

第1回クルーザ教室会計報告書

(収 入)		(支 出)	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
受講者会費 (27名分)	270,000	講 習 費	44,945
		(内 訳)	
		配布教材費 18,760	
		教室借料 7,200	
		講師受講者会食費 17,610	
		通 信 費 450	
		印 刷 費 200	
		雑 費 725	
		実 習 費	187,650
		(内 訳)	
		使用艇借料(7隻)135,000	
		指導員会議費 2,450	
		艇長,助手手当 33,000	
		けい船料 15,200	
		雑 費 2,000	
合 計	270,000	合 計	232,595

差引残額 37,405-

1965年度初島レース報告

古 屋 静 男

日 時 ; 1965年4月3日 / 4日

帆走委員長 ; 古 屋 静 男

帆走委員 ; 福永昭 国松磐 上野 山口

18.15より艇長会議を行う、当日は前日からの強風が続いており、大島、八丈島に強風波浪注意報が出されていたが、測候所とも打合せ、強風は以前残つておるも前線の通過の必配はなく、日曜一杯天候は崩れることないと判断、レースを行うこと決定。但し、横浜、横須賀各保安部より重ねて、荒天準備に十二分に注意して欲しい旨注意あり、この点各艇長に充分注意要請する。

スタートは小網代湾外に定置網ある為スタートライン若干沖に出して定置網の一番岸寄りに Committee Boat を set する 20.00 スタート、NE2~3m海上穏か、スタート直后、数艇が定置網に飛び込むも潮風以外は自力で脱出潮風はマークボートにて曳航、スタートやり直しの上、出発する。月光は約20分遅れてスタート、各艇スピンをあげ初島に向う。

明朝5時頃ゴールと予想、城ヶ島温泉ホテルに待機する。

4月4日(日) NE 7~8 m

A.M.5時すぎにトツブ艇、視界に現われる。05, 58, 05 LOTUS がトツブにてゴール、続いて、KEY SEVEN SCHEDAR とゴール、その後各艇次々とゴールする。A class が相次いでゴールするが、B Class MOSSA II が6番目にゴールと健闘。13. 18. 24 BABY MARRIE が最後にゴール、全艇完走。事故なし、修正時間にて1位 MOSSA II 2位 SIRENA が占める、両艇共艇の性能をよくつかみ、充分に乗りこなしている帆走振り、最近の好調を裏づける。尚潮風は艇長の説明によりスタート直後の混戦にて定置網に止むを得ず入る結果となつたと説明あり、帆走規則に基づき、修正時間+5%とする。

以 上

1965, 4, 3 初島レース精算書

入金	出艇料	¥ 21,000-
参加料		¥ 54,500-
		¥ 75,500-
支出	コミッティー宿泊料、電話架設料	¥ 16,297-
	※電話代(城ヶ島温泉ホテル)	2,000-
	夕食及び電話代(油壺ボートサービス)	993-
	油壺ボートサービス謝礼	4,000-
	交通費(¥550×3人)	1,650-
		¥ 24,940-
	1965.4.5現在 残金	¥ 50,560-

※電話代(温泉ホテル)は未確定故¥2,000-預託

※賞益代金は含まれていない。

1965年度初島レース

スタート 1965年4月3日 2000

着順	セイル番号	艇名	クラス	艇長	経過時間	T.C.F.	修正時間	順位
1	355	LOTUS	A	SEKINE	9-58-05	.681	6-47-47	(A-3) 4
2	323	KAY SEVEN	A	KURIBAYASHI	10-26-14	.684	7-08-19	A-6 8
3	359	SCHEDAR	A	E.L.CAPERS	10-26-35	.642	6-42-14	(A-2) 3★
4	188	CONTESSA II	A	OKAMOTO	10-57-45	.677	7-25-11	A-9 11
5	179	SIRENA	A	OHGIMI	10-59-42	.605	6-39-07	(A-1) 2★★
6	198	MOSSA II	B	YOSHIDA	11-06-53	.587	6-31-28	(B-1) 1★★★
7	135	KUROSHIO	A	KOIKE	11-18-05	.619	7-00-11	(A-4) 5
8	199	SALMON II	A	TOMINAGA	11-30-01	.655	7-31-57	A-12 14
9	190	GEKKO II	A	KUBOTA	11-32-21	.635	7-19-39	A-8 10
10	305	RYUOMARU	A	CHIN	11-34-12	.645	7-27-46	A-11 13
11	164	SAGAMI II	A	IIJIMA	11-34-52	.627	7-15-41	A-7 9
12	184	JOVIAL FIVE II	A	TODA	11-34-53	.607	7-01-48	A-5 7
13	315	DONGAME	B	WATANABE	11-45-34	.597	7-01-14	B-2 6
14	358	SHIOKAZE III	A	TAKESHITA	12-23-27	.679	※8-49-51	A-13 19
15	301	ARMADA	A	MATSUDA	12-25-34	.599	7-26-36	A-10 12
16	334	JUNE BRIDE	B	SUGINOBU	13-03-20	.584	7-37-27	B-3 15
17	346	HISHAKAKU	B	SHUTO	13-41-20	.596	8-09-30	B-5 17
18	321	KELONIA	B	OOTANI	14-00-10	.580	8-07-18	B-4 16
19	327	OLYMPUS II	B	OCHIAi	14-07-42	.584	8-15-03	B-6 18
20	354	BABY MARIN	B	ANDO	17-18-24	.580	10-02-16	B-7 20

※ Start直后定置網に接触。マークボートにて曳航、スタートやり直しをした為修正時間+5%とする。

40年度下田南進黒潮レース概況報告

昭和40年5月2日～3日

例年の如く伊豆急KKの御好意による前夜祭が、下田東急ホテルで開かれました。又、翌日のスタートと両日に亘り、休日をも省ず下田海上保安部長をはじめ警救課の方々、しきね、すみだ、の各船長もわざわざ参席され吾々に励しと、適切な御指示を下さいました。

特に今回のレースはスタート前、いろいろと取沙汰された様に、黒潮本流が三宅を中心としてNEに流れて居り、その周辺は3～4ノット位と予想され、万一NEの風が強まれば、相当な困難を想像させるに充分な資料が揃いすぎている。故に今回はシーマーカーを安全備品として搭載する事、エンジンの始動が容易である事等に定めた。

2日0800五月の薫風を受けて一斉にスタート(スタートラインは昨年と同様)をきる。NE7～8m/sec. スタート直后コミッテイー2名が、途中連絡の為巡視船「しきね」に乗船。「すみだ」と共にレース艇の後を追ふ。

N.O.R.C.のレースには必ず下田保安部の巡視船が警戒に当つて下さる上、「しきね」の宇都宮船長や士官達は、去年のオリンピックでレースの警戒にもたづさわつた経験がある為にか、ヨットの性格、性能をよく心得て居られた。又、「すみだ」は出港直前、長井附近で漁船が座礁したため、予定より遅れてレース艇の警戒に当られた模様であつた。

先頭艇団のMIGRATOR、KAY-SEVEN、CONTESSA-II等のグループは1130～1300頃には、早くも式根島～神津島間の沖をマークしていた。続いてくろしお、さがみ-II等のグループが同附近を通過するも、くろしおは目前で上げ潮にかゝりはじめた為潮流が激しく、遂にあきらめて恩馳島を西に大きく迂廻した。続くはやとり等も同様の目に逢い、こゝでトツプグループとの差は更に広がる破目となつてしまう。

1830城ヶ島レース本部に横須賀海上保安部を経由して巡視船「しきね」より情報が入る。1630～1645に大野原218°11Mはやとり、9MさがみII、216°11MにAOLELE等をそれぞれ確認する。従つて先頭艇団と后部艇団の分れ目の一方は、式根～神津間よりタツクしつゝ大野原島西近くをマークし、別のグループは恩馳島西側を大きく迂廻し、大野原島沖を遠くマークした違いが、前半のヤマ場であつた。

2000～2030にかけて三宅島坪田沖SE 1.5 MをMIGRATOR、KAY - SEVEN、CONTESSA-II等を確認し、海象は曇、SE 12m/sec～14m/sec. うねり3視界6であつた。又、優勝艇SCHEDARはそれ以前1930頃には既に坪田沖をマークしていた事が後で判明した。続いて2100頃SEA - WITCH. くろしお、さがみ-II、SIRENA. 等更に2300～2400にはやとり、のぶちやん、龍王丸、AOLELE、飛車角と続いてマークする。

フィニッシュ后各艇長の報告を総合してみると、トップグループが三宅附近にいた頃、それまでNEの風がSE 12m/sec.～14m/sec.にフレ。後続艇団が上り一杯での苦労を尻目に、追風でぐんぐん水を広げてしまった。

三宅島を廻航した艇は常時12m/sec.～14m/sec.の風に乗つて一旦針路を波浮沖に転じ、快走一路城ケ島に向ふ。

途中SEA - WITCHは三宅島Sの位置でゼノアを破り、ストームに換える。又更に大島E 2 M 附近で、テイラーの金具が折れ、直に補助テイラーに換えて(その間3～4秒位)帆走を続けたとの報告をフィニッシュ后艇長より受ける。

城ケ島本部も。まさか0534時にファーストホーム艇がフィニッシュするとは夢にも思はず、予想としては1300頃と安心してつゝも念の為ウオッチを早目にとることにしていたが、偶然にも0520に起床危くMIGRATORのフィニッシュを見落すところであつた。

さがみ-IIのフィニッシュ直后雨が降り出し、視界も段々と悪くなる一方であつた。

990の低気圧が近くにあり東進しつゝあつたので、1530海上保安部より未フィニッシュ艇について、フィニッシュした各艇よりその情報をとる様指示を受けた矢先、飛車角が真鶴に棄権入港し。続いてのぶちやんのフィニッシュを確認する。台風並の前線の到来寸前に残された龍王丸も江の島入港を確認し、1736横須賀海上保安部に本レース最後の連絡をとり城ケ島本部を解散する。

レース終了后「しきね」に乗船したコミッテイーより乗船勤務報告がありそれによると、「スタート前CONTESSA - IIのトランシーバーを借用し、レース中は毎時ジャストを期して絶えず巡視船と交信することが出来、その位置を確認するのに容易であつた。又夜間の警戒に当つては特に神径を使い、レーダーをも使つたが、殆んどその存在をキャッチする事が出来なかつた。又ヨツトの航海灯は暗く、時折波や帆の影にかくれて識別しにくい。航海灯が見えると、レーダーを見、

キヤツチ出来ない「あれはヨツトだ」と奇妙な現象がみられた。又、夜間セール番号を確認する時、懐中電灯で№を照らしても番号を読みとる事が出来ず、発光信号によるセール№の発信もデタラメがあるため、益々判読出来ず、遂にサーチライトによつて辛じてセール№を確認すると云ふ様な状態であつた」以上の如き点について 1.夜間航海に於ける航海灯について、 2.発光信号(セール№)の確実性 3.レーダー反射板について、至急改正する要があると思います

吾々レース艇の警戒に当つて下さる巡視船の皆様の負担を少しでも軽くする事が出来る様望んで止みません。

切角の連休を返上して御配慮下さつた下田海上保安部長殿をはじめ、スタートより終始レース艇と行動を共にされ、最終艇フィニッシュを確認する迄城ヶ島沖を巡廻し、レース艇の警戒、被護に当られた「しきね」、「すみだ」の両船長。乗員の皆様方及び地元各関係者の皆様方の御支援を心より感謝し、レースを無事終了出来た事を報告致します。

昭和 4 0, 5. 1 5

4 0 年度下田南進黒潮レース

レ ー ス 委 員 会

下 田 黒 潮 南 進 レ ー ス

(SHIMODA KUROSHIO NANSHIN RACE)

MAY 2ND 1965

セール№	艇 名	クラス	T.C.F.	艇 長	フィニッシュ時刻	所要時間	修正時間	順位
338	MIGRATOR	A	694	R.BERKEY	05-34-05	21-34-05	14-58-06	5
323	KAY SEVEN	A	684	K.TODA	05-47-15	21-47-15	14-55-10	③
188	CONIESTA II	A	677	S.ISHIHARA	05-57-30	21-57-30	14-51-57	②
359	SCHEDAR	A	642	F.L.CAPEERS	06-06-00	22-06-00	14-11-18	①
341	SEA WITCH	A	637	D.H.DILLARD	07-28-53	23-28-53	14-57-28	④
135	KUROSHIO	A	619	M.KOIKE	08-20-14	24-20-14	15-03-53	6
164	SAGAMI II	A	627	M.IIJIMA	09-07-30	25-07-30	15-45-13	7
179	SIRENA	A	605	K.OGIMI	11-00-00	27-00-00	16-20-06	9
312	HAYATORI	A	596	H.NATO	11-06-12	27-06-12	16-09-13	8
361	AOLELE II	A	603	H.NUAGUHI	16-05-55	32-06-12	19-21-20	10
302	NOBUCHAN	A	604	S.YASUKA	16-56-30	32-56-30	19-53-49	11
346	HISHAKAKU	B	596	H.SUDO	14-30	MANAZURU	D.N.F.	
305	RYUO MARU	A	645	H.CHIN	17-30	ENOSHIMA	D.N.F.	

但しフィニッシュ日は5月3日又Bクラス完走艇はありません。

下田南進黒潮レース会計報告書

収入内訳

参加申込料	16隻×1,000	16,000
申込遅延料	2隻×2,000	4,000
参加会員	48名×500	24,000
" 非会員	23名×1,000	23,000
合 計		¥67,000

支出内訳

宿 泊 費	城ヶ島温泉ホテル	10,145
	" 入室料 32名×150	4,800
食 費	於 下 田	3,450
	於 城ヶ島	2,800
	巡視船茶菓代として	1,100
交 通 費		10,460
通 信 費	専用電話仮設料	4,000
	通話料金仮払(月末精算のため)	2,000
	於 下 田	127
燃 料 費		1,375
燃 謝 礼	下田保安部その他	3,130
	下田及城ヶ島女中心付	1,300
備 品 費	電池、マジック、洋紙、画紙等	540
備 雑 費	有料道路	300
合 計		¥45,527
	差引残額	¥21,473

註 城ヶ島コミッティー 8 名、下田コミッティー 4 名、入室料は建物内に入場の場合の料金で普通は¥250 となります。

上記精算書には賞盃代、印刷料等は含まれません。

レース運営委員会